

## 第7回 第3期中海自然再生協議会議事録

日時 平成24年7月21日(土) 13:00~15:00

場所 鳥取県西部総合事務所(米子)

議事に先立って、24年度から鳥取県西部総合事務所生活環境局局長に就任された松本康右氏の挨拶を受け、中尾会長の司会のもとで議事が進行された。

### 議事

議事に先立ってこれまでの経過報告が國井事務局長から以下のようななされた。第6回協議会(3月10日)で実施計画案が承認されたが、その後もアドバイザー委員に相談、それぞれの実施案作成者との意見交換などで細部についての検討(大きな修正はなし)をおこなって3月31日に協議会委員に送付するとともにホームページに掲載したこと、4月に環境省の中国四国地方環境事務所に提出、5月には環境省本省の担当者からのコメント、6月には主務省(環境省、農水省、国交省)連絡会議を経て、進行中であること、6月13日には専門家会議での検討のための資料として全体計画および実施計画についてそれぞれA4一枚にまとめた要旨(今回資料として委員に配付)および専門家会議での説明用パワーポイント資料を提出を求められ、提出したこと、また8月7日に開催が決まった専門家会議には國井事務局長(NPO法人自然再生センター専務理事)および相崎守弘委員(NPO法人自然再生センター副理事長)が出席することになったことが報告された。ついで、以下の議事が行われた。

- 1) 4つの実施計画 ①アマモ場の保全・再生事業(名称を海草藻類(アマモ・コアマモ)保全・再生事業から変更)、②海藻類の回収および利用事業、③砂浜の保全・再生事業、④浚渫窪地の環境修復事業)についての24年度事業の進行状況報告および今後の4つの事業計画についてそれぞれ報告と質疑で行われた。
  - ① については國井世話人から、アマモ場については保全と再生、コアマモについては植栽適地の選定を行い、植栽後のモニタリングなどを中心として実施する計画であることが報告・討議された。
  - ② については渡部世話人から報告され、島根・鳥取両県による昨年度に引き続き藻刈り事業と連携して実施することが報告された。また中尾世話人からマクロベントス、とくにホトトギスについての生態学的な調査の重要性が指摘された。
  - ③ については田守世話人から報告され、中海再生プロジェクトによる今年度のオープンウォーター事業などと連携して砂浜喪失から再生の必要性、適地の選定などの基本的な課題について見学会や討論会などを行なうことから進めたいとの報告があり、討論がなされた。

- ④ については桑原世話人から平成 20～22 年度の環境省推進費による事業とその後の調査にもとづく石炭灰造粒物を用いた埋め戻し実験の経過と効果および細井沖窪地での 50cm の全面覆砂と錦海沖窪地での小規模実験の計画が報告され、斉藤世話人からは Hi ビーズの基本性能の説明とともに、地元 NPO 等の要望にもとづいて中国電力グループとして、これらの計画に前向きに実施を検討したいとの報告があった（配付資料添付）。なお、全体討論のなかでは徳岡世話人（NPO 法人自然再生センター理事長）から、8 月 7 日の専門家会議で事業計画が認められるかどうかによるが、当 NPO としては 3 年間の環境省経費およびその後の調査研究結果を踏まえてこの実施計画案をつくってきたので、中国電力グループに対して参画されることを要望するとの考え方であるとの意見表明があった。

## 2) 平成 24 年度の中海自然再生協議会の持ち方について

國井事務局長から第 1 期の事業実施計画の作成が終了したので、今後の協議会については、これまでよりも間隔を空けて 3 ヶ月程度での開催とすること、各事業計画についてはサブグループをつくるなどして密な討論をしてもらうこと、これらを含めて協議会委員には広報することなどが提案され、了承された。なお、8 月 7 日の専門家会議の結果については、別途委員宛に知らせるとの報告があった。

## 3) その他

平成 24 年度地域生物多様性保全実証事業（中海自然再生）委託業務（環境省自然環境局）、NPO 法人自然再生センターから申請、について採択されたことから、業務仕様書を提出し、業務がスタートしていること、内容としては上記の 4 つの事業に予算を振り分け、各世話人会と連携をとりながら実施することが國井事務局長から報告された。

（以上）